



2010年11月22日(月) 開催
 テーマ:「最近のインド外交政策」

報告者:小堀深三(研究顧問)

概要

1. 10月下旬の日印首脳会談で、日印包括的経済連携協定(CEPA)の基本的合意が成立した。「次なる10年に向けた日印戦略的グローバル・パートナーシップのビジョン」も採択された。11月上旬、米オバマ大統領が訪印し、「米印グローバル・戦略的パートナーシップ」の方向付けと内容がより明確になった。オバマ大統領は、米印関係を「One of the defining global partnership of the 21st century」(11月8日インド議会演説)と位置付けた。

インドを巡る日米の最近の動きを通じて、インドの外交政策を考察する。

2 インドの基礎的情報

- (1) G20の中で、GDPではインドは11番目。インドの対外貿易(2009年)に占めるランキングでは、日本は11番目。トップ3はアラブ首長国連邦、中国、米国の順。
- (2) ①インド(NPT加盟拒否国)は核兵器保有国。その配備核兵器は60~80(2010年5月26日付FAS資料)。インドは社会主義経済から市場主義経済への移行を果たした直後の1990年代の「核か経済成長化か」の選択から2000年代には「核も経済成長も」の選択に踏み切った。
 - ②2006年米ブッシュ政権は、民生用原子力利用について、IAEA保障措置協定およびNSG合意を含む諸条件つきで、インドと原子力協定協議に入り、2007年8月最終合意。2008年12月に米印原子力協定が発効。2009年12月現在、インドは米国を初め英、仏、ロシア等8カ国と原子力協定締結済。2010年8月制定のインドの「原子力賠償法」一部修正問題あり。
 - ③「With my visit, we are now ready to begin **implementing** our civil nuclear agreement」と宣言。(オバマ大統領11月8日インド議会演説)
- (3) 中国を巡る地政学的環境
 - ① 中印国境の係争
 - ② インド洋の権益を巡る中印パワーバランスの行方(中国の所謂「A String of Pearls 戦略」とインドの対応)

詳細は、米国防省報告: Military and Security Developments Involving the People's Republic of China, August 17, 2010 参照
- (4) インドの Look East 政策
 - ① Look East: ASEAN10+印, EAS, ADMM Plus, 印豪 FTA, 印韓 FTA

- ② We want India not only to **look East**. We want India to **engage East**.
(オバマ大統領インド議会演説)。
- ③ Look to **encircle China**? (人民日報)
- ④ 2010 年 11 月の APEC ヨコハマ宣言では、インドの APEC 加盟決定先延ばし(2011 年 APEC ハワイで実現か?)

3 日印関係のキーワード

- (1) 日印 CEPA
 - ① 2012~2017 年度新経済5カ年計画でインドはインフラ整備に1兆ドル投入予定(シン首相 10 月 25 日東京講演)日本の大規模な官民投資期待
 - ② 「人の移動」、協定発効後 1 年以内、遅くも2年以内に結論をだす。
- (2) 日印原子力協定
 - ① 2010 年6月日本政府方針転換。日印両国交渉スタート。10 月、11 月と積極的に交渉中。
 - ② 米仏企業がインドで原発建設するには、その親会社や提携先である日本企業の参加が不可欠(原子力ビジネスは国ごとに独立した企業体制から国際提携型体制に変化)

4 米印関係

- (1) 米国の輸出促進と宇宙産業や防衛産業向け先端技術のインドへのほぼ制限無しの提供(米同盟国並み扱い)
- (2) 新しい米国のアジア戦略フレームワークの設定?
 - ① インドを組み入れた”Quadrilateral Initiative”(豪州-インド-日本-米国)の復活?
 - ② インドの TPP 加盟勧奨?(2010 年 10 月の CNAS の提言”Natural Allies: A Blueprint for the future of U.S.-India Relations”)

以上